



October 2026

Newsletter

第39号

技術院 広報誌

令和8年10月16日発行

「ぐんだいで遊ぼう！」がナゾトキにリニューアル

群馬大学技術院では、子どもたちに大学や科学を身近に感じてもらうことを目的として、「ぐんだいで遊ぼう」を開催しています。昨年度から、これまでの科学体験イベントから内容を一新し、「科学×リアルナゾトキ」をテーマとしたイベントへリニューアルしました。

今回の「ぐんだいで遊ぼう」では、単に科学実験や工作を体験するだけではなく、キャンパス全体を舞台にした一つの物語の中で、参加者自身が謎を解きながら科学を体験できる仕組みを取り入れました。

物語の始まりは、「博士の大切なメガネがなくなった！」という事件です。メガネには博士の研究の記憶が詰まっており、参加者は博士から依頼を受け、なくなったメガネを探すことになります。キャンパス内には科学に関するさまざまな謎と体験が用意され、班ごとにヒントを頼りに次の場所を探しながら、六つのチェックポイントを巡ります。

各チェックポイントでは、「色のふしぎ」「イライラ棒」「光の不思議」「ゴム鉄砲」「音と模様」「くるくる落下」など、科学をテーマとしたクイズや工作、体験活動に挑戦します。色の変化を利用した科学クイズ、偏光板を使った工作、イライラ棒の体験、ゴム鉄砲を使った的当て、音の周波数による模様の観察、紙を使った落下実験など、実際に手を動かしながら科学の不思議を体験できる内容です。



写真1. テーマ「色のふしぎ」の様子

各体験をクリアすると、次の謎を解くための「ヒント」を獲得できます。集めたヒントは、専用の「回転グリル暗号盤」を使って解読します。六つの科学体験を通して集めた文字を組み合わせることで、次に向かう場所や最後の謎につながるメッセージが浮かび上がります。

そして、すべてのヒントを集めた参加者を待っている

のが最後のナゾトキです。記念館に隠された宝箱や暗号など、これまでに集めた情報を手掛かりにして謎を解き、博士のメガネを取り戻すことを目指します。

今回のリニューアルでは、「科学を教える」のではなく、「謎を解くために科学を使う」という視点を大切にしました。子どもたちは楽しみながら実験や工作に取り組み、「なぜだろう?」「どうしてこうなるの?」と自然に考えることができます。また、班の仲間と相談し、情報を組み合わせながら答えを導き出すことで、科学的な考え方と協力して課題を解決する楽しさを体験できます。

イベント終了後、参加した子どもたちからは、「楽しかった」「おもしろかった」「また参加したい」といった肯定的な感想が多く寄せられました。謎を解きながらキャンパスを巡る今回の新しい試みを楽しんでもらえたことがうかがえ、科学の楽しさを伝える新たな方法として手応えを感じるイベントとなりました。

企画・運営では、技術院職員がそれぞれの専門性や経験を生かし、科学体験の内容からナゾトキの仕掛け、会場の準備、当日の進行まで、さまざまな場面でイベントを支えました。大学の施設や技術を活用し、子どもたちが「大学って面白い!」「科学って楽しい!」と感じてもらえるイベントを目指しています。

「ぐんだいで遊ぼう」は、科学を体験すると同時に、大学を身近に感じてもらう場でもあります。今回の「科学×ナゾトキ」を通して、子どもたちが楽しみながら科学への興味を深め、身の回りの「なぜ?」に目を向けるきっかけになればと考えています。これからも技術院では、技術や科学の魅力を分かりやすく伝える活動を続けていきます。

(文責：齋藤)



写真2. 記念館での最後のナゾトキの様子

「第1回 群馬大学技術院発表会」開催

2026年9月7日(月)、群馬大学桐生キャンパス総合研究棟4階402教室において「第1回 群馬大学技術院発表会」を開催した。本発表会は、2002年から2025年までに通算23回開催された「理工学系技術部発表会」を継承したものであり、群馬大学技術院に所属する技術職員が日頃の業務や成果を発表することにより、技術交流の促進および資質向上を図ることを目的としている。2025年4月に全学の教育研究系技術職員を統括した「群馬大学技術院」発足して以来、記念すべき第1回目の開催となった。

聴講対象は全教職員および学生と幅広く設定し、開催形式は他拠点からのアクセス等も考慮して対面とオンラインのハイブリッド形式とした。来賓として、学長や理事など大学運営を担う役職者をお招きし、ご多忙の中ご出席いただいた。

発表会は、池田技術院次長、石崎学長、花屋研究担当理事(技術院長)による開会の挨拶で開式した。冒頭では、全学統合後初開催であることを踏まえ、技術院の全6分野(「情報・メディア分野」、「医学基盤分野」、「生命科学分野」、「化学・計測分野」、「機械・電気分野」、「環境・安全分野」)について、各分野代表者より紹介が行われた(口

頭発表・各10分)。

続いて業務発表に移り、3件の口頭発表(各20分)と6件のポスター発表(1時間)を実施した。口頭発表では、高度な専門性を生かしたシステム開発や装置開発の実例が紹介され、職員個々のスキル向上における重要性を再認識する機会となった。ポスター発表では昭和地区(医学系)からの発表参加も多く見られ、職員間の積極的な技術交流が行われた。全体を通して質疑応答も活発に交わされ、大変実りある発表会となった。

(文責：高橋)



発表会の様子

ホームページリニューアルのお知らせ

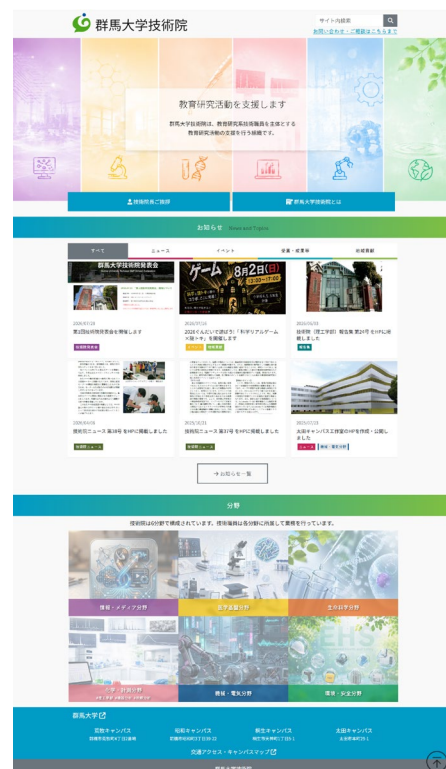
いつも群馬大学の教育・研究活動にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

群馬大学の教育研究系技術職員組織は、2025年4月より組織体系を一新し、「群馬大学技術院」として新たにスタートしました。従来の学部やキャンパスの枠組みを超え、全学を横断する統合的な組織へと生まれ変わっております。これに伴い、2026年8月21日をもって従来の「理工学系技術部ホームページ」を閉鎖し、新たに「群馬大学技術院ホームページ」を公開いたしました。

【新ホームページの特徴】当組織は、「情報・メディア」「医学基盤」「生命科学」「化学・計測」「機械・電気」「環境・安全」の6分野で構成されています。新しいホームページでは、各分野が専門性を活かした発信を行えるよう、分野ごとの専用ページを設けております。また、多岐にわたるトピックをスムーズにお探しいただけるよう、トップページのお知らせ欄にはキーワード検索・分類機能を備え、閲覧性を高めました。

立ち上がったばかりの組織およびホームページのため、掲載コンテンツは順次拡充を図っている段階ですが、今後も皆様に役立つ情報を積極的に発信してまいります。ぜひ新しいホームページをご覧くださいと幸いです。

(文責：高橋)



群馬大学技術院ホームページ

(URL: <https://www.tsd.gunma-u.ac.jp/>)